

CCMC2023

Contemporary Computer Music Concert

「多様性豊かなアコースマティック音楽の現在」
マルチ・チャンネル・スピーカー・オーケストラによる
アコースモニウム・コンサート

2023年3月11日（土）～18日（土）

同志社女子大学京田辺キャンパス

頌啓館 K101 ホール

〈プログラム〉

3月11日(土)

17:00 CCMC 公募入選コンサート 1 / Concert 1 : Works selected by CCMC

- | | |
|--------------------------|---|
| 1-1 杉浦菜月/Sugiura Natsuki | unibirth |
| 1-2 新美術/Niimi Toru | Di desa Celuk チュルク村にて |
| 1-3 都築健司/Tsuzuki Kenji | Brain break |
| 1-4 田中敬一/Tanaka Keiichi | 野生電子種子植物の浄化作用
Wild electronic seed plants purifying action |
| 1-5 橋本雄志/Hashimoto Yuji | YOZA |

3月12日(日)

17:00 CCMC 公募入選コンサート 2 / Concert 2 : Works selected by CCMC

- | | |
|-------------------------------------|------------------------|
| 2-1 マヌエラ・ブラックバーン/Manuella Blackburn | Cupboard Love |
| 2-2 後藤隼/Goto Hayato | 蓄音地/sound-storing land |
| 2-3 織田理史/Oda Masafumi | Noble Soul |
| 2-4 岩熊恵子/Iwakuma Keiko | 夢 |
| 2-5 岩田渉/Iwata Wataru | Principium Mundi |

3月13日(月)

17:00 CCMC 公募入選コンサート 3 / Concert 3 : Works selected by CCMC

- | | |
|--|------------------------------------|
| 3-1 ニコラ・フモ フラテジアーニ/Nicola Fumo Frattegiani | Soffio ipostatico |
| 3-2 ダンテ・タンジ/Dante Tanzi | Percola |
| 3-3 細川雅章/Hosokawa Masaaki | Just pull it. |
| 3-4 原悠真/Hara Yuma | 机上の宇宙探査/Space Exploration on Paper |
| 3-5 菅原聖秀/Sugawara Seishu | 思考乃湖/Thinking |

3月14日(火)

17:00 アコースマティック・ミュージック・ライブコンサート 1 / Acousmatic Music Live Concert 1

- | | |
|-----------------------------------|--------------|
| 1-1 TEAM MADSTCOLL/電子音響ピープルプロジェクト | MADSTCOLL |
| 1-2 永松ゆか/Nagamatsu Yuka | TransitionTV |
| 1-3 松宮圭太/Matsumiya Keita | 阿修羅/ASURA |
| 1-4 ダヴィッド・ジョルダ/David Jorda | 交差点 |
| 1-5 渡辺愛/Watanabe Ai | 信濃の山女魚 |
| 1-6 由雄正恒/Yoshio Masatsune | dototo.008 |

3月15日(水)

17:00 アコースマティック・ミュージック・ライブコンサート 2 / Acousmatic Music Live Concert 2

- | | |
|--------------------------|----------------|
| 2-1 足本憲治/Ashimoto Kenji | 3 Bagatelles |
| 2-2 森田信一/Morita Shinichi | Hosenka |
| 2-3 平野砂峰旅/Hirano Saburo | Convollusion |
| 2-4 大久保雅基/Ohkubo Motoki | Kitchen stream |
| 2-5 牛山泰良/Ushiyama Taira | 大禍時 |
| 2-6 葛西聖憲/Kasai Masanori | Étude 2023 |

3月16日(木)

17:00 アコースマティック・ミュージック・ライブコンサート 3 / Acousmatic Music Live Concert 3

- | | |
|---------------------------|---|
| 3-1 檜垣智也/Higaki Tomonari | 「石巻ハ、ハジメテノ、紙ノ声、……」より第3部 |
| 3-2 天野知亜紀/Amano Chiaki | 断片化された阿部家の風景 |
| 3-3 高橋哲男/Takahashi Tetsuo | 19の断章/May we dodge by giving old hard goodbye, era 19 |
| 3-4 田代啓希/Tashiro Hiroki | 朽ちゆくモノたち |
| 3-5 坂野伊和男/Banno Iwao | agglutination |
| 3-6 ドニ・デュフル/Denis Dufour | フランス作品
Piano Dream op.198 (2022) |

3月17日(金)

17:00 アコースマティック・ミュージック・ライブコンサート 4 / Acousmatic Music Live Concert 4

- | | |
|------------------------------|--|
| 4-1 成田和子/Narita Kazuko | 積層/laminage |
| 4-2 長瀬元應/Nagase Gen | Système d'ébullition pour ensemble de percussions (faux)
打楽器アンサンブル(嘘)のための「沸騰するシステム」 |
| 4-3 岡田智則/Okada Tomonori | 8.6 元安川 |
| 4-4 阿部睦美/Abe Mutsumi | plaisir transparent |
| 4-5 上野航/Ueno Wataru | まどろみとこごえ |
| 4-6 かつふじたまこ/Katsufuji Tamako | 君と見たしっぽ/Tails I Saw With You |
| 4-7 石上加寿也/Ishigami Kazuya | 放下放下著/Houge Houge-Jaku |

3月18日(土)

17:00 アコースマティック・ミュージック・ライブコンサート 5 / Acousmatic Music Live Concert 5

- | | |
|-------------------------------|---|
| 5-1 岡本久/Okamoto Hisashi | 街角スケッチ 2/An on-street sketch 2 |
| 5-2 渡邊裕美/Watanabe Hiromi | Surdose |
| 5-3 林恭平/Hayashi Kyohei | ステンドグラス・ウィンドウズ・イン・ザ・スカイ
Stained-Glass Windows In The Sky |
| 5-4 佐藤亜矢子/Sato Ayako | 線は密めく |
| 5-5 大塚勇樹/Ohtsuka Yuki | Fragmentary Passage (Asynchronous) |
| 5-6 高野大夢/Takano Hiromu | Another Room |
| 5-7 ヴァンサン・ロブフ/Vincent Laubeuf | フランス作品
une douce étrangeté/奇妙な優しさ |

解説等

注：英語文「作品コンセプト」「作品解説」の翻訳は「DeepL Translator」による自動翻訳です

3月11日（土）

17:00 CCMC 公募入選コンサート 1 / Concert 1 : Works selected by CCMC

1-1 杉浦菜月/Sugiura Natsuki

作品名：unibirth

作品コンセプト：私たちは宇宙を写真や映像でしか見たことがなく、実際の宇宙を実感することができない。想像上の宇宙と実際の宇宙はどういうものなのかを考え、瞳に映る宇宙からの光が素敵なものだったらいいなという願望と、実際の宇宙は綺麗なものばかりではないのかもしれないという考えのもと、私が感じている宇宙観を表現しました。タイトルの「unibirth」は、宇宙の universe、誕生の birth、ひとつのかけがえのないものの unique の3つの意味を込めて付けました。

作曲者略歴：名古屋音楽大学 音楽総合コース電子オルガン専攻を卒業。同大学映像音楽コースの研究生として在籍。4歳からエレクトーンを始める。今までに中川晶紀子氏、鈴木季伊子氏、兼松正直氏、水野義子氏に師事。11歳からギターを伊藤英明氏に師事。13歳から作曲を始め、16歳よりシンガーソングライターとして活動し、自身のアルバムとオムニバスアルバムを発売。昨年から本格的にコンピュータでの音楽制作に取り組む。電子音響音楽、生楽器と組み合わせたライブエレクトロニクス、ミュージックコンクレート、ミニマルテクノなどを制作している。2022年7月、「水鞠」が坂本龍一のラジオ番組「RADIO SAKAMOTO」のオーディションコーナーで400人程の応募の中からの優秀作品9作品に選出されオンエアされる。

1-2 新美術/Niimi Toru

作品名：Di desa Celuk チュルク村にて

作品コンセプト：1997年以来、四半世紀にわたって録りためた Indonesia Bali 島の Celuk 村のアーカイブ音源を利用して構成した作品。3年に一度行われる公開火葬では、牛の形をした棺を「死者の寺」まで村中を担ぎ廻る勇壮な儀式である。on と off、ケとハレが地続きになった毎日の生活を記録した、音による民族芸術学的記録。

作曲者略歴：大阪芸術大学で電子音響音楽に出会い、限りない可能性の追求と捉えて作品制作を続ける。世界的なパンデミックにより、暫く終の棲家に帰れないのが心残りの毎日。法人職員。

1-3 都築健司/Tsuzuki Kenji

作品名：Brain break

作品コンセプト：本作は「思考」を主題とした作品である。人が思考するときには生じる脳内の処理、脳が目覚め、考え、混乱し、閃き、休むこの一連の目に見えないサイクルをどのように表現するか。という自身の考えを模索した。常に思考を繰り返す脳内に起こる目まぐるしい変化を様々な音素材を通じて表現し、作品内では複数の音素材が使われ、それぞれモチーフとなる音を配置した。iPhone のアラーム音が目覚めの様子を映し出す。混乱する思考を老若男女問わず都内の雑踏で行き交う人々の声、足音、喧騒。対となる天使の囁きを学園の幼稚部にて休み時間の生徒の遊び声を実際にフィールドレコーディングを行い、これらをEQ、エコー、コンプなどの音響処理を行うことで音楽的な拡張、変化をもたらしている。特徴的な継続音にはMaxを使いランダムに生成し空間を補填する役割となっている。これらの音素材を時間軸的な動きに配置することにより音楽的な変化を構成した作品である。

作曲者略歴：2002年 東京都出身。玉川大学芸術学部アート・デザイン学科メディア表現コース在籍。同大学にて、作曲、音響、和声などを学修。空間的、立体的に表現ができる立体音響作品に興味があり、アンビソニック作品マルチチャンネル型作品、サウンド・インスタレーションなどを制作している。

1-4 田中敬一/Tanaka Keiichi

作品名：野生電子種子植物の浄化作用/Wild electronic seed plants purifying action

作品コンセプト：野生電子種子植物による浄化作用のイメージ。デジタルのサイン波、アナログシンセ、フィールドレコーディング。

作曲者略歴：東京都出身 多摩美術大学デザイン科卒

1-5 橋本雄志/Hashimoto Yuji

作品名：YOZA

作品コンセプト：欲とは何か、というところを起点に制作を始めた。欲は多面的であると思う。発展のために必要なものであると同時に、リスクも伴う。意欲と言えば前向きな感じがするし、欲望と言えば底無し沼のように聞こえる。本能からくる欲とそうでない欲とがあるが、それら欲たち自体に意思があったとしたら、前者には後者がどう見えるのか。後者は後天的なものであるから、その芽生える瞬間を前者は知っていることになる。違和感を覚えるのだろうか。哀れに見えたり情けなく見えたりするのだろうか。と、勝手に格の違いを想像した。欲が誤った方向に進みそうなとき、そこに待ったをかけるのは、初めから自分の中にあるものなのか。それとも自分の身体を超えた、もっと大きなものなのか。想像したその顛末を、音に代入してみた。

作曲者略歴：富山県在住 31 歳。小学生の頃から様々な楽器に興味を持ち、今日まで何かしらの形で音楽を続けている。大学生時にはマレーシアでのライブツアーを敢行。現在は富山のボーカリスト 村井香織とのユニット「Lilcot」としても活動している。あるイベントのBGM制作を依頼されたことがきっかけで電子音楽に興味を持ちはじめ、制作手法を模索。元々旅好きであったことから行く先々でフィールドレコーディングをするようになる。楽音と雑音、アコースティックとエレクトリック、ギターとピアノ、などといった様々な境界を縋り交ぜにした音を目指し試行錯誤中。

3月12日(日)

17:00 CCMC 公募入選コンサート 2 / Concert 2 : Works selected by CCMC

2-1 マヌエラ・ブラックバーン/Manuella Blackburn

作品名 : Cupboard Love

作品コンセプト : This composition explores the memories found in cupboards, draws and cabinets. Scraps of paper, photographs and mementos come to life through sonic snapshots of earlier times. Opening and closing cupboards offers an inviting gesture to enter new sonic worlds; a cliché of the acousmatic genre, but reimagined here as an everyday action that frames the appearance of sound memories. This open/close action reveals environments, places and spaces, showing brief sonic glimpses of my past years. A key influence guiding the work's construction was the concept of the interruption. Exploring interruptions in all its forms and how these impact upon continuity was an important step for developing the work's structure.

この曲は、食器棚や引き出し、キャビネットの中にある思い出を探るものです。紙くず、写真、思い出の品などが、以前の時代の音のスナップショットとしてよみがえります。食器棚を開けたり閉めたりすることは、新しい音の世界へ誘う仕草であり、アコースティックなジャンルの決まり文句であるが、ここでは音の記憶の出現を縁取る日常の行為として再創造されている。この開閉動作は、環境、場所、空間を明らかにし、私の過去数年間の短い音の片鱗を見せる。作品制作の指針となった重要な影響は、中断の概念である。あらゆる形での中断と、それがどのように連続性に影響を与えるかを探ることは、作品の構造を発展させるための重要なステップであった。

作曲者略歴 : Manuella is Senior Lecturer in Music, Film and Media at The Open University, UK. She has been composing for over 15 years and has created a wide range of electroacoustic music works for instruments and electronics, fixed media, sound installation work, music for dance and for film. Her research specialisms include composition, sampling and intercultural creativity.

2-2 後藤隼/Goto Hayato

作品名 : 蓄音地/sound-storing land

作品コンセプト : 「音を蓄え、音を放つ土地」をテーマにした作品。かつて田んぼだった場所からカエルの合唱が響き、かつてパチンコ屋だった場所から騒音が響くような土地を散歩する観測者の聴体験を念頭に制作した。観測者の時間・空間的移動と音波の時間・空間的変動は、観測者にとって純粋に聴覚的には区別され得ないという原理が、ここでは「蓄音地」という装置を通じて強調される。

作曲者略歴 : 2000年生。北海道東部出身。東京都在住。東京大学工学部精密工学科を卒業後、同大学院にて光テクノロジーの研究に取り組んでいる。趣味は、ハンディレコーダーを片手に散歩をすることと、音楽を聴くこと。

2-3 織田理史/Oda Masafumi

作品名：Noble Soul

作品コンセプト：「美しい魂」とは何であろうか？もちろん多くの回答が存在し得、そして唯一の答えなど期待できるわけがない。それはまず「美しい」ということがどういうことかが普遍的に明らかにされているとは言えず、また「魂」も同様であるからだ。しかし、「美しい魂」としか言えないものに出会ってしまった。それは、資本主義的な欲望の網目に絡め取られることに必死に抵抗し、苦難に陥りながらも自由を求め、人を包み込み、その大いなる優しさを人々にも伝えていく。その魂はそのほかのどの魂とも違っていた。際立ち、輝き、しかし一人泣いていた。そのような魂と私は今人生を共にしている。その魂の苦難、美しさ、憧れ、底なしの自由を音楽で表現した。妻を想像して電子音にし、苦境に陥れ、躍らせ、そして飛翔させる。これこそが、いくらか抽象的ではあるがドラマチックな「美しい魂」の物語だ。

作曲者略歴：マルチメディア・アーティスト/哲学者。決定的なテーマは「根源的な二元性から成る多様体(マルチメディア)」である。ソフトウェア、ハードウェア、デジタル、アナログ、抽象的概念、具体的固有名…「連続」と「離散」という関係の下で、これら全てをフラットに扱い、そのことで全く新しい「形態」を現出させる作品・パフォーマンス・システム設計を志向している。国内外の音楽祭・芸術祭・コンクールで入賞・入選多数。日本電子音楽協会会員。

2-4 岩熊恵子/Iwakuma Keiko

作品名：夢

作品コンセプト：西欧的な音を使いコラージュとドローンを試みた短い作品である。昨今はコロナ禍に始まり、長らく不条理の世界にいるようでもある。夢は不思議である。胡蝶の夢さながら、夢と現実折り合いをつけながら生活は続いていくのだろう。

作曲者略歴：福岡県生まれ。地元短期大学で音楽を学んだのち、大阪芸術大学通信教育部音楽学科卒。在学中に電子音響音楽に触れ、興味を持ち制作を続ける。

2-5 岩田渉/Iwata Wataru

作品名：Principium Mundi

作品コンセプト：クリック音一つで始まる世界。デジタルカオスで終わる世界。複数のレイヤーに重なり合った現実と超現実の中で生きる我々がみる世界は、夢幻のように儂いもの。いくつもの現実に関わりながら、それら複数の現実をスライドしながら、時にはフローしながら見る終わりのない夢。

作曲者略歴：幼少の頃よりクラシカルピアノのトレーニングを受ける。6歳よりCM制作に携わり、9歳よりMTRでの作曲/音楽制作を始める。15歳でジャズ理論を学ぶ。ユースをボストン、NYで過ごし、フリージャズの薫陶を受ける。NYでは杉村篤に師事し、絵画、美術制作を学ぶ。帰国後はパフォーマンス・グループ主催、音楽制作、マルチメディア教材の制作、ピアノトリオ、カルテットを始めとした演奏活動、専門学校講師、絵画展、インスタレーションを行ってきた。現在、コンテンポラリー、電子音響、クラシック、エレクトロ・アンビエント等のフィールドで創作・演奏・企画/制作を行う。またディレクターとして、クラシック・コンサートの企画、国際会議の企画・制作、美術展のキュレーション、デジタルアート制作など、分野を超えた積極的な活動を行っている。

3月13日(月)

17:00 CCMC 公募入選コンサート 3 / Concert 3 : Works selected by CCMC

3-1 ニコラ・フモ フラテジアーニ/Nicola Fumo Frattegiani

作品名 : Soffio ipostatico

作品コンセプト : "Hypostatic blow" is an acousmatic composition made exclusively of accordion samples. The acoustic material has not been manipulated, filters and virtual environments have not been applied. The sound is just the result of montage techniques. The structure is built on superimposed audio strips which move slowly within the acoustic spectrum. The temporal elongations allow for the investigation of the textural qualities and the micro-variations to the detriment of the dynamic. In the extreme frequency zones the sound is enriched with the noise and concrete components generated by the mechanical efforts of the instrument pushed to their limits. The title takes the first part of the term accordion, $\phi\upsilon\sigma\alpha$, which means «blow» (in Italian Soffio) and the adjective hypostatic, which refers to the philosophical concept of hypostasis indicating that which benefits from its own texture, that is the subsistent being, the nature from which qualities flow without exogenous alterations or interventions.

"Hypostatic blow" は、アコーディオンのサンプルのみで構成されたアコースティックな楽曲です。音響素材は操作されておらず、フィルターや仮想環境も適用されていない。音は、モンタージュ技術の結果である。構造は、音響スペクトルの中でゆっくりと動くオーディオストリップを重ね合わせることで構築されている。この時間的な伸長により、テクスチャーの質感や、ダイナミックさを損なうような微小な変化を調べることができる。タイトルは、アコーディオンの最初の部分、 $\phi\upsilon\sigma\alpha$ 、それは「吹く」(イタリア語で Soffio) を意味し、形容詞 hypostatic、それはそれ自身のテクスチャーから利益を得ることを示す hypostasis の哲学的概念に言及して、外来修飾または介入せずにそこから品質が流れている本質、つまり存在することである。

作曲者略歴 : Nicola Fumo Frattegiani is an electroacoustic and audio-visual composer living in Perugia, Italy. His works have been presented at various national and international festivals. Author and performer, his research deals with electroacoustic music, sound for images, video, art exhibitions and compositions for theatrical performances. He is a Subject Expert in "Electroacoustic" and "Computer Music" at the Conservatory of Music of Perugia. He holds the chair of Electroacoustic Music Composition at the Conservatory of Music of Messina.

3-2 ダンテ・タンジ/Dante Tanzi

作品名：Percola

作品コンセプト：In “Percola” the combination of structures, samples and electronic sounds aims to produce contrasting situations. Following a linear development, the repetitions of the vocal samples are contextualized within distinct units: a rhythmic theme, based on the repetition of the "Ha" sample; a bridge, based on a crescendo of sampled melisma; a central section - tonally characterized - and a new rhythmic theme as a coda. The thematic materials were interpreted through stylized patterns with a classic and ethnic taste. The effects of transposition, pitch bending and timbre brushing have been applied together with the synthesis sounds Fm and additive. Samples of male voices are: Ha, Huia, Eh-olgu- (guttural), E-ee-e-e-e-e-e (melodic), Ohu? Ah, E-heee (melisma-loop), Ogubenai (guttural).

Percola では、構造、サンプル、電子音の組み合わせにより、対照的な状況を作り出すことを目的としています。直線的な展開の後、ボーカルサンプルの繰り返しは、「Ha」サンプルの繰り返しに基づくリズムックテーマ、サンプリングされたメリスマのクレッシェンドに基づくブリッジ、音色的に特徴づけられる中央部、コーダとしての新しいリズムックテーマというように、個別のユニット内で文脈化されています。テーマとなる素材は、クラシックとエスニックなテイストを持つ様式化されたパターンを通して解釈された。移調、ピッチベンディング、音色ブラッシングの効果が、合成音 Fm と additive とともに適用されている。男声のサンプルは以下の通り。Ha, Huia, Eh-olgu- (小声), E-ee-e-e-e-e (メロディック), Ohu? あ、えーへー (メロスマループ)、おぐべーない (小声)。

作曲者略歴：Dante Tanzi is a composer and performer of acousmatic music. From 1985 to 2009 he worked at the Computer Science Laboratory of the University of Milan. His compositions have been performed in Italy (Musica Nel Nostro Tempo, Colloquium of Music Informatics, Festival 5 Giornate, Festival Musica e Suoni, Levanto Music Festival), in Switzerland (Euromicro, Computer Music Concert), in Canada (EuCue Series), in U.K.(ICMC, Sonorities), in Spain (Flix Festival, Festival Bernaola), in France (Festival Licences, Festival Futura, SIME, En Chair et En Son, Klang!), in Colombia (BunB), in the United States (NYCEMF), in Portugal (DME) in Austria (Ars Electronica) in Argentina (Atemporànea), in Japan (OUA-EMF), in Belgium (Espace du son) and in Mexico (Festival Ecos urbanos). In 2011, in 2014, in 2017 and 2018 he curated the program of acousmatic music concerts as part of the 'Festival 5 Giornate' in Milan. He is a founding member of the 'Audior' association (www.audior.eu).

3-3 細川雅章/Hosokawa Masaaki

作品名：Just pull it.

作品コンセプト：スマホで録った環境音、電子ノイズ、ネットのフリー音素材や古いサンプリング C_D_ の音を異なった周期で重ね合わせ、そこに、幾つかの旋律や和音を分断して組み合わせています。無秩序に進行する音の重なりの中で、聴く人なりのリズムや旋律を感じていただければと思います。また、タイトルは作品中、不意に「そのまま引けば…」と聞こえる声からとっています。

作曲者略歴：新潟市在住。CCMC2013、CCMC2014 入選。

3-4 原悠真/Hara Yuma

作品名：机上の宇宙探査/Space Exploration on Paper

作品コンセプト：In a nutshell, I created this work with the aim of creating an attraction-like work where you can experience various universes in about 7 minutes as an astronaut. During the epidemic of this new virus, I silently watched science fiction movies such as Star Wars and 2001: A Space Odyssey at home. It was at this point that I got the inspiration for my work. And the most important thing in creating this work is that I, the creator, made it so that I can enjoy playing it in my dark room at midnight. I don't have much knowledge about this sky, but I've always liked imagining it, so I named it "on Paper". I hope you enjoy my imagined universe. As an aside, as a challenge to myself, I made it with only an electric guitar.

一言で言えば、宇宙飛行士になって約7分間で様々な宇宙を体験できるアトラクションのような作品を目指して制作しました。この新型ウイルスの流行期には、家で黙々と「スターウォーズ」や「2001年宇宙の旅」などのSF映画を見ていました。このとき、作品のインスピレーションを得たのです。そして、この作品を作る上で最も重要なことは、作り手である私が、夜中に暗い部屋で楽しく遊べるように作ったということです。この空についてあまり知識はないのですが、昔から想像するのが好きだったので、「on Paper」と名付けました。私の想像する宇宙を楽しんでいただければ幸いです。余談ですが、自分への挑戦として、エレキギターだけで作りました。

作曲者略歴：none

3-5 菅原聖秀/Sugawara Seishu

作品名：思考乃湖/Thinking

作品コンセプト：考えるということ、それは雷が落ちたような衝撃を走らせたり、高揚感で胸を踊らせたり、時には体にぽっかり穴が空いたような虚無感に苛まれたり、といった様々な色をもたらします。そのような色彩を音で表現しました。

作曲者略歴：2000年北海道札幌市生まれ。現在は東京電機大学の作曲・音楽文化研究室で電子音響の研究を行っている。

3月14日(火)

17:00 アクースマティック・ミュージック・ライブコンサート 1/Acoustic Music Live Concert 1

1-1 TEAM MADSTCOLL/電子音響ピープルプロジェクト

作品名：MADSTCOLL

作品解説：This piece is a collaborative work by students taking a course at the graduated school of an university in Japan. Twelve pieces were composed based on individual concepts, and they were remixed. Each piece by composed them can be regarded as a collective of acoustic fragments cut out from everyday life through the perspective of those in their twenties living in Japan today, with using the expressions based on noise, madness, tinnitus, lo-fi acoustic images between memory and reality, and the computer related noises. This work is a collective that resonates with each other after spending 2020 bound by COVID-19.

この作品は、日本のある大学の大学院の講義を受講している学生によるコラボレーション作品です。それぞれのコンセプトに基づいて12曲が作曲され、リミックスされた。ノイズ、狂気、耳鳴り、記憶と現実の狭間のローファイな音像、コンピュータにまつわるノイズなどの表現を用い、現代日本に生きる20代の視点で日常を切り取った音響断片の集合体として構成された作品である。この作品は、2020年をCOVID-19に縛られて過ごした後、互いに共鳴し合う集団である。

プロフィール：“DENSHI ONKYO PEOPLE Project / TEAM MADSTCOLL (Takuro Shibayama, Sayaka Abe, Yuki Handa, Ryogo Hashimoto, Katsuya Kobayashi, Chie Kubota, Takumi Mashita, Tsuzuki Nagai, Miho Nogaki, Takahiro Suzuki, Misaki Tsuboya, Taiga Yamaguchi, Yurina Yoshida) is a volunteer group of students in the “Advanced Music and Design” course at the Graduate School of Science and Engineering, Tokyo Denki University. For many of them, this was their first experience in creating electroacoustic music, but despite this, they each worked on their own unique sound expression.

1-2 永松ゆか/Nagamatsu Yuka

作品名：TransitionTV

作品解説：夜中にTVを消し忘れたときに観る、夢(映)の遷移を音で表現した作品。

プロフィール：ミュージック・コンクレート、アクースマティック・アートを中心に、電子音楽、映像・舞台・身体表現やメディアに関わる領域横断型の音楽に興味をもつ。相愛大学特任助教、帝塚山学院大学非常勤講師。

1-3 松宮圭太/Matsumiya Keita

作品名：阿修羅/ASURA

作品解説：この作品は舞踏集団大駱駝艦の舞台「阿修羅」のために作成した舞台音楽です。インド神話において、最高神インドラ（帝釈天）と壮絶な争いを繰り広げ、天空の覇権をめぐる戦いに執念を燃やした阿修羅は、最後には戦いに敗れて仏教に帰依したとされ、その像は仏教を守る神さまとして祀られます。阿修羅には3つの顔、6本の腕があり、善悪が対立し葛藤する阿修羅の性格がその面相に表れているとされ、中でも有名な興福寺の阿修羅像は、幼少期、思春期、青年期それぞれの苦悩と憂いが表現されています。過去と未来を見据えつつ、勝利と救いを巡る心の揺らぎを意識して作りました。

プロフィール：東京藝術大学大学院修士課程修了。第8回武生作曲賞受賞。第8回デステロス作曲コンクール佳作。第87代在マドリード・フランス・アカデミー芸術会員。ロームミュージックファンデーション奨学生として、パリ国立高等音楽院に留学。IRCAM作曲研究課程、カサ・デ・ヴェラスケスでのアーティストレジデンス、愛知県立芸術大学大学院非常勤講師を経て、現在、大分県立芸術文化短期大学専任講師。アンサンブル・ルガル創設メンバー。クラングシュプーレン音楽祭（オーストリア）、サントルアカント夏期講習会（メッス）、ミクスチュール音楽祭（スペイン）、アルス・ムジカ音楽祭（ベルギー）、統営国際音楽祭（韓国）等で作品が演奏されている。2023年1月、多治見ロータリークラブの委嘱により制作した混声合唱、二台ピアノ、鍵盤打楽器と電子音響のための組曲《土と炎》が多治見少年少女合唱団とシニアコアによって初演された。

1-4 ダヴィッド・ジョルダ/David Jorda

作品名：交差点

作品解説：私は、カタロニアの文化の中で育ったフランス人で、現在は日本に住んでいます。最近、私の興味を引くものは日本とフランス、そしてカタロニア文化の関係です。「交差点」では、私の話す言葉（フランス語、カタロニア語、日本語、英語）の音の響きを組み合わせました。4つの言葉の音の交差点から生まれた響きによる新しい表現を模索しました。

プロフィール：1987年生まれ。フランスのカタロニア地方出身。ペルピニャン音楽院にて、Denis Dufour と Jonathan Prager にエレクトロアコースティック音楽の作曲を学ぶ。2009年卒業。パリ国立高等音楽院にてエクリチュール（2016年修了）と映像音楽（2019年修了）を学ぶ。2016年より作曲家、編曲家として活動している。2023年4月より相愛大学非常勤講師。

1-5 渡辺愛/Watanabe Ai

作品名：信濃の山女魚

作品解説：大正から昭和にかけて活動した小説家、葉山嘉樹の随筆に「信濃の山女魚の魅力」がある。釣りをする作家と、それを巧妙にかわすヤマメの睨み合いがコミカルに描かれる。ところで、音を探することは釣りに似ているかもしれない。どこにいるか想像して、考えて、見つけた結果釣れるという感動もあるかもしれないし、諦めかけたところに思いがけない出会いがあることもある。釣竿、釣り針、餌などの道具を使い、陸から水中へという異なる媒質を経由して行うそれは、日常生活の時間感覚を狂わせ、自我や主体性を融解させる。これはエレキギターの媒介性や発音原理、時間の拡張、そして音と対峙する姿勢と繋がるのではあるまいか。エレキギター版の初演はギタリスト・山田岳氏によって2023年1月15日、松本市音楽文化ホール ザ・ハーモニーホールにて行われた。今作はこれをアコースマティック・ヴァージョンとして新たに編み直したものである。

プロフィール：作曲家。アコースモニウム演奏家。東京藝術大学、昭和音楽大学、玉川大学各非常勤講師。日本電子音楽協会理事。先端芸術音楽創作学会会員。JWCM 女性作曲家会議メンバー。東京音楽大学大学院修了後に渡仏、パリ国立地方音楽院修了。東京藝術大学大学院博士後期課程修了。JAPAN2011 受賞(イタリア)、国営ラジオでの放送(フランス)、ICMC2018(韓国)RADIO SAKAMOTO presented by 坂本龍一)での放送等国内外で評価を得る。リュック・フェラーリ研究で博士号取得(学術)。
<https://aiwatanabe.tumblr.com/>

1-6 由雄正恒/Yoshio Masatsune

作品名：dototo.008

作品解説：dototo 第8番。このシリーズにおいては採取した音から音点を形成するために、FFTのデジタル処理が中心となる。その音点を変容し、重ね合わせることで一つの音像が作られていく。またその音像から別の音点を採取し、変容と組み合わせを繰り返すことでフォームが形成される。dototo〔名詞〕ドットットと発音する。音点。この音点が組み合わせられて音像が形成される。通常2つのスピーカがあれば音像は表現できるが、複数のスピーカにより音像が強化される。関連語：dototo per speaker = 1スピーカ辺りの音点の数。(例：24dps 音像の解像度のこと)

プロフィール：神戸出身。作曲家、メディアマスター No.75。コンピュータによる芸術作品の創作を専門とし、アルゴリズムック・コンポジション、音響合成、ライブエレクトロニクス、メディア表現を題材にした創作研究を行っている。電子音響作品は、国内外(ICMC、CCMC等)において演奏される。昭和音楽大学、IAMASを卒業。日本音楽即興学会、情報処理学会会員、日本作曲家協議会監事、先端芸術音楽創作学会運営委員、日本電子音楽協会理事、昭和音楽大学准教授。

3月15日(水)

17:00 アコースマティック・ミュージック・ライブコンサート 2/Acoustic Music Live Concert 2

2-1 足本憲治/Ashimoto Kenji

作品名：3 Bagatelles

作品解説：3つの短い曲からなる作品。作曲当時の関心は「アコースモニウムで演奏しごたえのある作品を！」だったと記憶している。自らの演奏技術の拙さを顧みずに作ったもの。5年以上ぶりの再演となる。スピーカー2個によるステレオ再生とアコースモニウム上演とを並べて論じる際のあれこれについて、無邪気に「空間でしょ」とは答えづらい自分があるのは相変わらず。作品のアイデンティティとは、音楽の強さとは、といった話題を含め、この作品を作った当時を思い起こしつつ「あまり変化していない自身」に対し自省と自戒を重ねている。

プロフィール：作品創作のほか、映画・TV、コンサートにおける編曲をしばしば担当。中学校教科書には編曲作品が複数採用されている。全幕の編曲を担当したオペラ《オルフェオとエウリディーチェ》では三菱UFJ信託音楽賞奨励賞を受賞。最近の作品・仕事としては、吹奏楽曲『Kicky Game』(WAKO Records)、フルート独奏曲『Bocc』(Daiki sound)、電子音響とクラリネット独奏のための『A Study in Pale Blue』(JFC日本の作曲家2023コンサート)、NHK連続テレビ小説『おかえりモネ』(編曲)など。現在、日本作曲家協議会、先端芸術音楽創作学会、各会員。国立音楽大学准教授。

2-2 森田信一/Morita Shinichi

作品名：Hosenka

作品解説：日常にある様々な音の中から、どんな音を選ぶのか。選んだ音をどのように、どこまで加工するのか？それらをどのように組み合わせるのか、それぞれ多様な自由度がある。いろいろな試みをする中から、音色、ピッチの高低、時間的刻み、強弱といったものが、いろいろな形で感じられてくることもある。広い自由度の中からアコースマティック作品を作ることは、多様な試行錯誤を試みなければならない。少しずつ組み立てながら日数をかけて、作品を作っていく作業が続くことになる。この作品では、6つの種類の音を採集し、こらから切り出した素材を少し加工した。だいたい見当がつく音だと思うが、わかりにくいのは、バネを響かせるおもちゃのような器具、それとシンキングボウルというものです。

プロフィール：東京理科大学で物理学を学ぶ。江崎健次郎主宰の音響デザイナー協会に加わったことから、“音展”(音の展覧会)での活動で、1973年から1979年まで電子音響作品を発表。東京学芸大学大学院で作曲と音楽教育学を学ぶ。作曲グループ“パッケージ21”(1984~1990)、その他で器楽作品を発表。電子音響音楽は、CCMC、Miso Music Portugal、FAF、Bourgeで発表。作曲家協議会会員。

2-3 平野砂峰旅/Hirano Saburo

作品名：Convollusion

作品解説：インパルス (impulse) をモチーフにした作品シリーズの新作。
インパルスは、音響信号処理の分野では究極にシンプルで、そして有用な信号(音)です。しかし、その“プチッ”と聞こえるととてもとても短いインパルス音は、無味乾燥でノイズのようにさえ聞こえます。今回は、このインパルス音に畳み込み積分(Convolution)を多用した表現を試みました。畳み込み積分は、最近の電子音楽ではコンボリューションリバーブとして空間表現に多く用いられます。この作品では、空間だけでなく多彩な音色表現にも用いています。なお、作品タイトルのConvollusionはConvolutionとillusionを組み合わせた作者による造語です。

プロフィール：平野砂峰旅(HIRANO SABURO)：京都精華大学メディア表現学部教授、九州芸術工科大学大学院修了(芸術工学修士)、関西学院大学大学院修了(工学博士)。ISEA、ICMC、NIMEなどの国際会議で作品を発表。サウンドトラック制作を手がけた映像作品も国内外で受賞。コンピュータミュージック、サウンドアート、メディアパフォーマンスの分野で制作、研究を行う。

2-4 大久保雅基/Ohkubo Motoki

作品名：Kitchen stream

作品解説：本作ではキッチンで収録された音と川の流るるの音を使用している。エレクトロアコースティック・ミュージックの1つの魅力として、音によって空間を作ることが挙げられる。音素材を用いてキッチンと川辺という別空間を繋げている。その2つは空間的に無関係であるが、音響テクスチャが組み合わせられることによって新しい空間や繋がりを生み出す。作曲方法は、録音中の音具の演奏、音響処理のパラメータを操作する演奏と DAW 上での波形の構築を組み合わせている。構築された音を聴くセクション、音風景、音響合成によって進行するストーリー、様々な作曲上の音響イベントが音楽を作る。

プロフィール：1988年宮城県仙台市出身。作曲家、サウンドエンジニア、プログラマ。名古屋芸術大学、愛知淑徳大学、相愛大学非常勤講師。洗足学園音楽大学音楽・音響デザインコース卒業。情報科学芸術大学院大学メディア表現研究科修士課程修了。先端芸術音楽創作学会、日本電子音楽協会、日本AI音楽学会会員。Contemporary Computer Music Concert 2010にてACSM116賞を受賞。Wired Creative Hack Award 2019にてSony特別賞を受賞。塩竈市杉村惇美術館若手アーティスト支援プログラム Voyage 2021に採択された。

2-5 牛山泰良/Ushiyama Taira

作品名：大禍時

作品解説：夕方から夜にかけて最も幽霊や妖怪といった怪異に遭遇する時間を逢魔時(おうまがとき)と呼びます。実際、この時間は事件や事故の多い様です。そのため、同じ意味で同じ語呂の大禍時と呼ぶ事もあるそうです。これらの怪異や神霊、オカルティックな者たちとの繋がりをここ数年の作品のテーマにしています。今回もちょうど作品が上演される時間がまさに逢魔時であり大禍時という事でそんな彼らの興味を惹きそうな作品を心がけてみました。

プロフィール：1989年12月長野県諏訪市出身。電子音楽家・サウンドアート作家・音響エンジニアと活動は多岐にわたる。大阪芸術大学大学院修士課程作曲領域を修了。2014年に仲間と共に電子音楽カンパニー「hirvi」を立ち上げ、電子音楽のワークショップやコンサートを企画・運営している。創作においては伝統と前衛、音と空間を内包した創作を目指す。

2-6 葛西聖憲/Kasai Masanori

作品名：Étude 2023

作品解説：この音楽会もコロナと同時に東京を離れ、ここでの2回目となりました。思えば、1997年にGRMの講習会に参加したのを機に、電気機器などを使っての作曲も続けてきました。それまでは、五線紙と鉛筆で作曲をしてきていたのに、それに加えて、少しやり方の違う作曲の仕方が増えてしまいました。ま、方法や書法などはともあれ、音楽をすることに違いはないので、自己表現の目標みたいな物に、あまり違いはないと思っています。それにしても、音楽をすることは自分にとってどういう意味を持つのか、と、相変わらず問い続ける日常です。

プロフィール：1986年以来、ここ(同志社女子大学)、で余生を送っています。しかし、もう間もなく引退予定。

3月16日(木)

17:00 アコースマティック・ミュージック・ライブコンサート 3/Acoustic Music Live Concert 3

3-1 檜垣智也/Higaki Tomonari

作品名:「石巻ハ、ハジメテノ、紙ノ声、……」より第3部

作品解説:詩・朗読:吉増剛造。詩人・吉増剛造氏の詩「石巻ハ、ハジメテノ、紙ノ声、……」に音楽をつけた同名の中編作品の第3部を上演いたします。

プロフィール:作曲家、アコースモニスト。愛知県立芸術大学大学院修了。博士(芸術工学、九州大学)。フランス留学中に現代音楽の作曲とアコースモニウムの演奏で注目される。ハーバード大学、ケルン大学、Futura 音楽祭等で招待公演を行う。フランス国立視聴覚研究所音楽研究グループ、回路の詩神、高橋アキ等から委嘱をうける。3枚のソロCDをリリース。第5回国際リュック・フェラーリ・コンクール最高賞(2003)、第18回文化庁メディア芸術祭審査委員会推薦作品(2014)、大阪文化祭奨励賞(2022)など受賞、入選多数。ボンクリ・フェス(東京芸術劇場)では1回目から電子音楽の部屋の監修を担当。東海大学准教授、大阪芸術大学大学院客員教授。

3-2 天野知亜紀/Amano Chiaki

作品名:断片化された阿部家の風景

作品解説:この作品は、2022年亀山トリエンナーレにて出品したサウンド・インスタレーション「淡い、良い夢を。」の音楽を再編した。今作のテーマを「心の在り処」とし、この場所に宿る”何か”を”彼女”として表現した。街の風景や建物を見てみると、多くの人々が交流を行われたこの場所には、何かが宿っているような気配を感じられたことから着想を得た。

プロフィール:映像や立体等との複合的な表現による音楽、サウンドインスタレーションを制作。CCMC、アート瀬戸内、亀山トリエンナーレ等にて出品。

3-3 高橋哲男/Takahashi Tetsuo

作品名:19の断章/May we dodge by giving old hard goodbye, era 19

作品解説:ChatGPTによる“Everyday we have said good-bye among COVID-19 era”のアナグラムを元にさらにそのタイトルにフィットするメロディをテーマにしたいAI遊び

プロフィール:仙台在住 身体性とテクノロジーをテーマに max/msp などのプログラミングやモジュラーシンセをはじめチェロ、ベースの即興演奏、アコースマティック ミュージック 作品の発表、プロジェクションマッピングの楽曲を提供など、ライブ活動、作品発表を行っている。長尺音楽専門レーベル nord perdu edition を主宰。 https://linktr.ee/nord_perdu

3-4 田代啓希/Tashiro Hiroki

作品名：朽ちゆくモノたち

作品解説：この作品は「朽ちる」という言葉から着想を得て制作された電子音響音楽作品である。この世界に存在するモノには必ず終わりがあり、いずれ朽ち果てる。その終わりの形は様々であり、美しく儂く、そして尊い存在だ。今を生きる我々も決して例外ではなく、いずれその時がやってくるだろう。その時に我々が目にする物はなんだろうか？そこに広がる世界はどんな様子だろうか？ユートピアなのか、はたまたディストピアなのか。聴き手は音のみで紡がれた“音世界”から「朽ちゆくモノたち」の姿形とその情景を想起して欲しい。

プロフィール：神戸市出身。音響作家・音響及び映像技術者。電子音響音楽の作曲・演奏を主な活動フィールドとして、「自由なイメージを想起できる音」をテーマに作品制作に取り組む。またアナログからデジタルまで幅広い知識を活かしてエンジニアとしても活動しており、音響だけでなく映像撮影やLIVE配信に関するオペレート及びテクニカルサポートも行なっている。これまでに、CCMC(2016-2022 東京)、FESTIVAL FUTURA (2019,2020 仏)、ボンクリ・フェス (2019-2022 東京 (などで作品を上演。CCMC2019にてFUTURA賞、2020にてMOTUS賞を受賞。大阪芸術大学大学院博士課程前期芸術研究科芸術制作専攻作曲研究領域(電子音楽)修了。電子音響音楽・アコースモニウム演奏を檜垣智也、音響技術を宇都宮泰の各氏に師事。現在、京都精華大学メディア表現学部非常勤講師。

3-5 坂野伊和男/Banno Iwao

作品名：agglutination

作品解説：いつものことながらプログラミング言語 Max を使って制作している(というより私にとって Max を使わない作品制作は既に不可能というのが本当のところ)。音列の生成には 12 音全てを使ったり、特定の音階を選んだりしている。音価、同時発音数、音域などは確率分布によってコントロールしていることが多い。オーディオ素材を使うときはそのスタート・エンドポイント、ピッチ、エンベロープ、定位などを変化させて構成している。最近ふと、「音が消え去る、その際」が気にかかる。そうなるにあらかじめ、音と音の空隙ってなんだろうとか、聴いている音そのものの向こう側に何かあるのかなとか、妙な思いを巡らすようになった。

プロフィール：1959 年愛知県生まれ。九州芸術工科大学 芸術工学部音響設計学科 卒業。同大学院修了。CCMC には公募も含め 2012 年から参加している。

3-6 フランス作品：ドニ・デュフール/Denis Dufour

作品名：Piano Dream op.198 (2022)

作品解説：16'16 ブランディヴィの作曲家自身のスタジオで制作

録音：ドニ・デュフール ピアノ：ドニ・デュフール

1. Meditative / 瞑想的 4'15
2. Hypnotic / 催眠術 1'23
3. Pensive / 考え深く 2'30
4. Obstinate / 頑固な 2'15
5. Agitated / 動揺した 3'33
6. Resolved / 解決済み 1'36

30年代から70年代(?)の半ばまでピエール・シェフェールが活動したフランス国営放送(ORTF)とメゾン・ド・ラジオ・フランスのスタジオでは、何があったのでしょうか。録音ブースに1台ずつピアノがありました。ミュージック・コンクレートの創始者が1948年に作曲した“Cinq études de bruits-5つの騒音のエチュード”に登場するピアノは鉄道と同じように、この新しい音響芸術の源泉となっています。このピアノドリームで用いた楽器は、プリペアド・ピアノではなく壊れたピアノです。捨てるくらいならリサイクルしてはと音楽院が、そこで教えている音楽分野のひとつで、甘やかされ、撫でられ、触れられ、(猫のような)ゴロゴロやグリッサンド、ギシギシ、ブツブツと発音するために引っ掻かれたりする幸せな老後の生き方を、ピアノに与えてくれるかもしれないと考えたのです。

プロフィール：1953年リヨン生まれ。リヨン音楽院およびパリ国立高等音楽院で学ぶ。器楽作品およびアコースマティック音楽の作曲家として知られる。現在までに180作品を作曲、音響現象を含む音の表現性や形態学的なアプローチに関するパイオニアとして知られ、その肥沃な音楽は多くの音楽家や芸術家に影響を与えている。70年代の終わりから教鞭を取り、ブローニュ・ビーランクール音楽院、パリ地方音楽院、ペルピニャン音楽院、リヨン音楽院、パリ国立高等音楽院で教える。研究や講演、アトリエやマスタークラスの開催を通してフランス、イタリアや日本におけるアコースマティック芸術の発展に寄与する。1976年から2000年まで国立視聴覚研究所・音楽研究グループIna-GRMのメンバーとして活動する。リアルタイムの分野においては、1977年からシンセサイザーを、1984年からは音楽コンピュータSyterを用いて行った。リヨンのAcore、ペリピニャンのSyntax、パリのMusiques à réaction、ドロームのフェスティバルFuturaのオーガナイザー/ディレクターを務める。また、いろいろな組織や集団、器楽アンサンブル(Motus、Futura、TM+、Ensemble Linea、Les Temps modernesなど)を立ち上げている。器楽、声楽、ミクスト、ライブ・エレクトロニクスとリアルタイム作品はMaison Ona (www.maison-ona.com)より、アコースマティック作品はOpus53で出版されている。

3月17日(金)

17:00 アコースマティック・ミュージック・ライブコンサート 4/Acoustic Music Live Concert 4

4-1 成田和子/Narita Kazuko

作品名：積層/laminage

作品解説：現在、アコースティック/アコースマティックオペラの作曲をしているが、まずテキストに沿って声楽のパートを作曲してしまい、それに器楽のパートを書き足し、それにヴァーカロイドや電子音の部分を作って重ねていくという、一層づつ書いて重ねていく方法を試みている。4つの層がうまく重なるかどうかはまだわからない。「積層/laminage」も層を重ねるという方法を取り入れたが、絵画のように、まず下地を塗り、いくつかレイヤーを重ねていき、その上に主題を置くという手法を試みた。

プロフィール：1997年から電子音響音楽のコンサートの開催に携わっている。同志社女子大学学芸学部音楽学科教授。

4-2 長瀬元應/Nagase Gen

作品名：Système d'ébullition pour ensemble de percussions (faux)
打楽器アンサンブル（嘘）のための「沸騰するシステム」

作品解説：病気から回復して地元でお仕事をいただいて以来、いつか「現場の音」を使いたいなあと思っていた。だが危険防止やコンプライアンス等々問題があって録音機材を入れられないのが大半だった。そんな中でも少し収録できたので、それを合成してフェイク・パーカッションアンサンブル風に作ってみた。沸騰とか蒸留、流れとかに関わるような無窮動の音が続く。割と単純で短めの作品（およそ8分45秒）。

プロフィール：1963年東京生まれ。学習院大学仏文学科在学時に個人レッスンで作曲を有馬禮子氏、音楽史・音楽学を西原稔氏に師事。90年代音楽・芸術関係の編集記者に従事したのち2003年CCMC夏期アトリエ参加。2010年以降「長瀬元應/Gen0Nagase」名義で電子音楽作品を発表。CCMCコンサート、11、12、14年富士電子音響芸術音楽祭（FAF）、15年FAF ANNEX FUJINOMIYAに出展。甲状腺疾患などで活動休止もCCMC2022から限定復帰。

4-3 岡田智則/Okada Tomonori

作品名：8.6 元安川

作品解説：隔年1回フランスで開催される電子音楽国際コンクール「Prix Presque Rien 2017」に応募した作品。コンクールの趣旨は「フランスの作曲家リュック・フェラーリが録音した未発表のアーカイブから発想を得て、そのアーカイブを使用して制作した作品によって競われる国際コンクール」というものである。本作品は最終選考に入選した。フェラーリのアーカイブを聴いていると、電車が走る音と川の流れる音が印象的だった。さらに、制作に取りかかっていた時期が8月だったため、先の戦争に対するヒロシマの様子を海外にも発信したいと考えた。8月6日の夜、元安川では灯籠流しが行われ、祈りの雰囲気にも包まれる。しかし、人々の思いは、世代や当時置かれていた状況によって異なる。ただ嘆く人、その責任を誰かに押し付ける人、さらには、その姿を見て愚昧を感じている人など、広島では多くの思いが発信される。その光景をいつも見てきた私は、「ヒロシマに限らず、戦争によって犠牲になった全ての人々へ、区別なく追悼の思いを捧げる」気持ちで作曲した。「録音アーカイブ：リュック・フェラーリ」

プロフィール：広島出身。録音技術やプログラミングを中心に、サウンド・テクノロジーを用いて制作を行うサウンド・アーティスト。アコースモニウム奏者。愛知県立芸術大学博士前期課程音楽専攻作曲領域修了。平成29年度、平成30年度と愛知県立芸術大学優秀学生賞を2年連続で受賞。長久手市長賞受賞。「CCMC2017」Futura 賞入賞。「Prix Presque Rien2017」入選。「FESTIVAL FUTURA」「ボンクリ Born Creative Festival」など、国内外の音楽祭で電子音響音楽作品が上演・展示。2019年「愛知県立芸術大学ポピュラー・クラシック・コンサート」にて、2管編成のオーケストラ作品『ヤマタノオロチ』が世界初演される。また、アコースモニウムの演奏メソッドの研究にも取り組み、「第125回日本音楽学会中部支部定例研究会」で、アコースモニウム初心者のための演奏メソッドについて報告している。

4-4 阿部睦美/Abe Mutsumi

作品名：plaisir transparent

作品解説：本作品は、冬を主題として氷や雪にまつわる具体音をもとに構成しました。あるフィギュアスケーターが氷上に描く美しい軌跡と雄大な自然が時間軸上、空間軸上に音を配置するときにとっても重要なインスピレーションを与えてくれました。夏を主題にした自身の電子音響作品「ある夏の日録」(CCMC2020 FUTURA 賞受賞)の他楽章として構想しました。

プロフィール：作曲家、メディア・アーティスト。横浜国立大学大学院工学研究科電子情報工学専攻修了。テレビ番組、アニメーション映画、広告映像の企画制作に従事。音楽美学校にてサウンドプロセッシング、ミックスエンジニアリング、録音技術を、ペンギン音楽大学にて音楽理論を学んだあと、電子音楽の作曲をはじめた。インドで音のヨガと出会い、現在は、じぶんの身体の声に耳を傾けながら、自然環境、人間、コンピュータという3つの分野の交差点で創作やリサーチ活動をしています。

4-5 上野航/Ueno Wataru

作品名：まどろみとこごえ

作品解説：昨年のCCMC 2022 アコースマティック・ミュージック・チャンネル参加作品素材は大晦日の寺で徹夜番をしながら録った音など。その他色々。うめき声のように聴こえるのは、椅子のキャスターが軋む音です。取り留めのない不気味な音が並んでいますが、平穏な心持ちのもとで制作された作品です。

プロフィール：大阪芸術大学 音楽学科卒 同志社女子大学非常勤講師
活動：尺八演奏、電子音響音楽の制作など

4-6 かつふじたまこ/Katsufuji Tamako

作品名：君と見たしっぽ/Tails I Saw With You

作品解説：あの日 あの港で 君と見た しっぽ

プロフィール：音作家。何気ない日常から小さな奇跡（音）を拾い集め、紡ぎ出されるその作品は、フランスほか海外のフェスティバル、ラジオ番組でも度々上演され好評を得ている。2018年にはMOTUSよりの委嘱作品「sketchbook」をFUTURA2018にて上演。一方、鍵盤ハーモニカほか、ビー玉、ペットボトルなどの日用品で奏でる繊細な生音と、日常音のサンプリング、エレクトロニクスを融合させたライブ演奏でも唯一無二の音世界を作り出している。2018年夏、パリ、ベルリンにてライブ演奏。2022年夏、バンコクにてパフォーマンスアートフェスティバルに出演。また、日用品を用いての音探しや合奏、作曲などを試みる「日用品オーケストラ・ワークショップ」も展開中。<http://hello-tsukineco.jimdo.com> <https://tamakokatsufuji.bandcamp.com/>

4-7 石上加寿也/Ishigami Kazuya

作品名：放下放下著/Houge Houge-Jaku

作品解説：放下著とは、執着を捨てるという意味である。放下とは、投げ捨てるという意味で、つまり放下放下著とは、執着を捨てることを捨てるという意味になる。楽に生きるためには執着しないことである。しかし執着しないということに拘りすぎると、それが執着になってしまうのではないだろうか。本作品は、本来であれば捨てられるはずの音を使用して制作している。捨てられるはずの音とは、トリミングで取り除かれてしまう音や録音失敗によって削除される音等である。これらの音は捨てられる記憶であり執着といえる。2022年1月制作 2022年2月19日 TAMA Music and Arts Festival 2022にて初演

プロフィール：1972年大阪生まれ。幼児期からテープレコーダーで遊びながらカットアップ・コラージュ風の作品を作り始める。高校生の時にミュージック・コンクレートとノイズミュージックに出会い本格的にテープ作品を作り始める。1992年からソロライブ活動およびテープ音源リリースを開始。1994年からコンピュータと音楽プログラミング言語 Max を使用したライブ演奏および作品制作をはじめ。1997年フランス INA-GRM での夏季アトリエに参加。DR(ドイツ公共放送)での委嘱作品をはじめ、WDR(西部ドイツ公共放送)、FUTURA 国際電子音響音楽祭(フランス)、MUSLAB 国際電子音響祭(メキシコ)、SILENCE 国際電子音響音楽祭(イタリア)、ICMC 国際コンピュータ音楽会議 2015(アメリカ/テキサス)、Music From Japan 2020(アメリカ/NY)などで作品上演をおこなう。自主レーベル NEUS-318 を主宰し、これまでに 100 タイトルを超える作品をリリースする。現在、仏教・神道の思想を元にした「音の記憶」をテーマにした作品の制作をおこなう。

3月18日(土)

17:00 アコースマティック・ミュージック・ライブコンサート 5/Acoustic Music Live Concert 5

5-1 岡本久/Okamoto Hisashi

作品名：街角スケッチ 2/An on-street sketch 2

作品解説：日常生活の中で、いつもあたりまえに聞こえていた音が、いつしか聞かれなくなっていることに、ふと気がつくことがあります。また虫や鳥の鳴き声のような「季節の音」は、その始まりに気がつくことはあっても、「終わり」に気がつくことはあまりないのではないのでしょうか。むろんそれはその時を“最後”として聞いているわけではないからなので、無理ありません。さてどのような街角でもそこで出会う音は、その土地の日常的な音やその季節だけの音、そしてたまたまその日やその時間だけの音などが重なりあったものなので、同じ街角でも訪れるたびに違った印象を持つことも少なくありません。それでも「あの時のあの音」をもういちど聞くためにその季節になればそこへ行きたくなり、期待どおりあるいは期待以上の音と出会ったり、期待外れの残念な結果になりながらも、その土地の新たな側面を知ることにもなり、街角の音のスケッチはなかなか楽しいものです。

プロフィール：大阪芸術大学芸術学部音楽学科作曲専攻卒業。作曲を原嘉壽子氏、七ッ矢博資氏に師事。和声法、対位法をサルバトーレ・ニコローシ氏に師事。作曲や編曲、コンピュータ音楽をはじめオリジナル電子楽器製作、若手の育成など様々な活動を行っている。また音環境研究として、特に様々な里地里山地域の音の記録を行い、その特徴などの分析研究を行っている。関西国際大学教授、大阪芸術大学非常勤講師。音と音楽・創作工房 116 (ACSM116) 運営委員、神戸市音楽家協会会員、日本騒音制御工学会会員、日本サウンドスケープ協会会員等。

5-2 渡邊裕美/Watanabe Hiromi

作品名：Surdose

作品解説：フィールドレコーディングした街なかのよくある音に対し、過剰なまでにエフェクトをかけて再構成した作品。本来ならばそれは現実ではない、架空のものでしかない音が、聴き慣れてくることによって徐々に現実味が増してきて、現実の音がむしろ幻覚となってしまふ。私の生きる世界が狂っているのか、世界を生きる私が狂っているのか、もしくは狂気のなかに私がいるのか、私が狂気なのか。そのような客体と主体とが反転し戯れ合うような音空間を創出した。

プロフィール：静岡県出身。東京藝術大学大学院音楽学専攻修士課程修了後、渡仏。パンタン県立音楽院にて審査員満場一致の最優秀で電子音響音楽の DEM を取得、同時に SACEM から奨学金が授与される。サン＝テティエンヌ大学コンピュータ音楽職業修士課程修了。繊細な色彩の移ろいが生み出す仮想の音響空間を求めて音楽制作を続けている。主な受賞歴は Musica Nova 2017 ミクスト部門第1位、CCMC2011にて ACSM116 賞受賞、Banc d'eaasi 2013 入選など。近年は幾何曲線を用いた音の空間投影のコントロール、及び音楽と映像・身体表現の連関などに関心を抱いている。hiromiwatanabe.com

5-3 林恭平/Hayashi Kyohei

作品名：ステンドグラス・ウインドウズ・イン・ザ・スカイ/Staned-Glass Windows In The Sky

作品解説：約10年目に作曲された作品。音楽作品でありながら映像的に物語を紡ぎ出しています。

プロフィール：大阪芸術大学大学院作曲コースにて、七ッ矢博資、上原和夫、宇都宮泰、石上和也、檜垣智也に師事する。作品は ICMC、Prix Presque Rien、イメージフォーラム、MUSLAB、Futura、Paris Festival for Different and Experimental Cinema. This 21st festival edition 等、国内外で上演され高い評価を得ている。国立国際美術館にて『Japan Electroacoustic Music Concert』を企画し成功に導く。ルイジ・ルッソロ電子音楽賞の日本代表の陪審員として2016～2022年に任命されている。2019年度、若尾裕が主催する『Creative Music Festival 2019』の講師を務めた。BBC RADIO『New Music Show』にて電子音響音楽作品が放送される。

5-4 佐藤亜矢子/Sato Ayako

作品名：線は密めく

作品解説：本作は「線」作品群(2012～)の最終章であり、2020～22年の旅の記録に基づく。とある「線」を巡る旅の道中で遭遇した音を拾い集めて作る本作品群は、私の旅路の痕跡、記憶の回顧録でもある。それは、完璧な準備のもとで録音された音ではない、偶然拾ってしまった生きた音たちを中心に構築されている。本作の初演は、サウンド・インスタレーションとして美術館の展覧会で展示された。その時その場の私をとりまく些細なできごと、日常、リュック・フェラーリの言葉を借りれば「逸話」の断片を、美術館の階段に散らばせた。道端に転がっている石ころや雑草のように。作品がたちあられる場においては、私と、誰かと、その周りでうずまく社会とが接触し、衝突しながら、とどまることなく響きつつ動く。新しい光とつながったその時にも、線は、私は、誰かは、その向こうを眺めながら、ただ密やかに声を発していた。最終章とはいうものの、まだまだ旅は終われそうにない。

プロフィール：作曲家、音楽家、アーティスト。主に電子音響音楽の領域で活動。旅先や日常で出会う雑音・生活の音・物音などの録音物を素材とし、環境や場所の記憶を辿りつつ上書きするような作品を作っている。ICMC、SMC、NYCEMF、WOCMAT、ISMIR、Festival Futuraなど各国の音楽祭や国際学会で作品を発表。東京藝術大学大学院アカンサス音楽賞、Destellos Competition、Prix Presque Rien、UPISketch Competition 他受賞多数。2019年東京藝術大学大学院音楽研究科博士後期課程修了。作曲家リュック・フェラーリの作品研究で博士(学術)取得。現在、玉川大学、大阪芸術大学、尚美ミュージックカレッジ非常勤講師。<https://asiajaco.com>

5-5 大塚勇樹/Ohtsuka Yuki

作品名：Fragmentary Passage (Asynchronous)

作品解説：Molecule Plane 名義での3rdアルバム『Apocrypha』リリース以降の断絶を補完するためのものとしての断片から生じる非同期の音の塊の羅列。アコースマティック・ミュージック・チャンネルから続く『Fragmentary Passage』の2作目。自己の中に仮設されたものによって励起し、やがて非同期的な調和を生むもの。そこにあったかもしれない不一致、そこになかったかもしれない同一性。そんなものでしか世の中と接続できないという自覚。そこにいた誰かの痕跡を引き継いで、音楽は作られていく。

プロフィール：京都府出身の音楽家、サウンド・エンジニア。大阪芸術大学で電子音響音楽の作曲およびアコースモニウムの演奏と音響技術を学び、同大学院博士(前期)課程を修了。CCMC2012ではMOTUS賞を受賞したほか、FUTURAやSILENCEといったヨーロッパのフェスティバルに作品がプログラムされる。また、「持続的な音色の積層化とそれに伴う複合的なテクスチャーの変容によって音響空間そのものの異化を誘発させる」というコンセプトに基づいて展開されるソロプロジェクト「Molecule Plane」としても活動しており、これまでに3枚のアルバムと配信限定EPをリリースし、国内外のコンピレーションアルバムにも多数参加。近年はモジュラーシンセサイザーを用いた作品制作やライブパフォーマンスも活発に行っている。マスタリングエンジニアとしてもこれまでに福間創、檜垣智也、テンテンコ、Merzbowなどの作品を手掛けているほか、企業や映像作品への楽曲・効果音提供、執筆、機材コンサルティング、ワークショップ講師など幅広く活動を展開している。電子音楽カンパニー hirvi メンバー。日本電子音楽協会会員。<https://push-it-studio.tumblr.com/>

5-6 高野大夢/Takano Hiromu

作品名：Another Room

作品解説：本作は時間と空間の「運動」に着目した作品である。「時間（音）を空間へ展開すること」や「空間そのものが時間（音）とともに変容すること」といった時-空間の運動が相互に関わり合うことの総体として音楽を捉え、そのさまざまな様態を表出させることを試みている。そのような運動に巻き込まれ、作品を聴き終わるとき、われわれはすでに変容してしまった以前とは異なる場所、「別の部屋」に自身が存在していることを発見するだろう。本作は 8ch マルチ音響システムのために 2020 年に作曲され、SICMF 2020 (韓国) にて初演された。また Espacios Sonoros 2020 (アルゼンチン) にてバイノーラルバージョンが放送初演されている。CCMC 2023 ではステレオバージョンをアコースモニウムにて上演する。

プロフィール：山梨県出身。山梨大学大学院教育学研究科修士課程修了。東京電機大学大学院先端科学技術研究科博士課程在籍。電子音響音楽を中心とした創作研究および同領域に関する文化研究活動を行う。作品は Contemporary Computer Music Concert、International Computer Music Conference、Seoul International Computer Music Festival、Espacios Sonoros など、国内外の音楽祭等にて上演されている。音響エンジニア、アコースモニウムの演奏者としても活動し、数多くの作曲家の作品のコンサート上演に携わっている。日本電子音楽協会会員。音と音楽・創作工房 116 運営委員。

5-7 フランス作品：ヴァンサン・ロブフ/Vincent Laubeuf

作品名：Une douce étrangeté 奇妙な優しさ (2023) 13'27

作品解説：この作品で作曲への新しいアプローチを試みたいと思いました。特に、あらかじめ加工したシンセサイザー音（ただし思い通りにコントロールできるように変形させた）をメロディーに用いることや、音楽に色彩感を与えながら（背景の緊張感を保ちつつ）優しさの形態を追求することです。

プロフィール：1974 年生まれ。ドニ・デュフル、ジャン＝マルク・デュシェンヌに師事。器楽曲から電子音響作品まで作品は幅広い。電子音響即興演奏を Bolitz と Motus で行っている。Imeb、Ina-GRM、Grame、Muse encircuit などのスタジオから招聘され、Syntax、In Extremis や Ensemble orchestralcontemporain などのアンサンブルのために作曲している。2008 年、Muse en Circuit 主催第 8 回リュック・フェラーリ国際コンクールに入賞。2006 年から Motus と Futura 音楽祭のディレクター、2013 年より SACEM の交響音楽委員会の委員を務めている。
vincentlaubeuf.bandcamp.com